

平成24年度「特別支援教育総合推進事業（特別支援学校と小・中学校との交流及び共同学習の推進）」報告書

団体名	新潟県教育委員会
研究開始年度	平成 24 年度

## I 概要

### 1 指定校の一覧

特別支援学校		交流及び共同学習の相手先となる小・中学校	
設置者	学校名（ふりがなを付すこと）	設置者	学校名（ふりがなを付すこと）
公	にいがたけんりつにいがたもうがっこう 新潟県立新潟盲学校	公	にいがたしりつさくらがおかしやうがっこう 新潟市立桜が丘小学校
		公	にいがたしりつにいつだいさんしやうがっこう 新潟市立新津第三小学校
		公	にいがたしりつやまがたちやうがっこう 新潟市立山潟中学校

### 2 研究テーマ

地域で絆を深め合うことを目指した特別支援学校と居住地校、近隣校との交流及び共同学習の在り方を考える。

### 3 研究の概要

(研究内容)

- (1) 交流及び共同学習の充実と児童生徒の学力の充実の検討
- (2) 障害の重度化・多様化に伴う交流及び共同学習の推進の検討
- (3) 「交流」と「共同学習」の両方の側面を大切にされた交流及び共同学習の推進の検討
- (4) 居住地校交流を実施するための効率的な教職員体制の確保の検討

(評価の観点及び評価方法)

- 交流及び共同学習の在り方に関する評価
- 居住地校交流、近隣校との学校間交流の指導に係る評価
- 外部評価（関係者評価を含む）

#### 4 研究成果の概要

##### <成果>

(1) 「交流及び共同学習の充実と児童生徒の学力の充実の検討」について

「居住地校交流概況記録」を双方の担任で共同して作成することで、双方の児童のねらいを共通理解して授業を組み立て、互いの児童について支援をすることができた。

(2) 「障害の重度化・多様化に伴う交流及び共同学習の推進の検討について」

盲学校小学部重複学級と近隣校の特別支援学級との生活単元学習における交流及び共同学習を実施した。盲学校では少人数での関わりが中心となっているが、相手校の新しい友達の前でも大きな声で挨拶や発表ができたことが盲学校の児童にとって大きな自信や喜びとなった。

(3) 「交流」と「共同学習」の両方の側面を大切に交流及び共同学習の推進の検討について

交流及び共同学習の取組の前後において、アンケート調査を実施したところ、盲学校の児童生徒、相手校の児童生徒、盲学校の教師、相手校の教師の全ての立場において、交流及び共同学習は有益な効果をもたらすという結果が示唆された。

(4) 居住地校交流を実施するための効率的な教職員体制の確保の検討について

「居住地校交流概況記録」を双方の担任で共同して作成することで、同一の尺度で評価することができた。協力校三校と Web 会議システムを使って、休み時間や授業における間接的な交流の環境を整えた。

##### <課題>

(1) 児童生徒の学力の充実を図るための交流及び共同学習の在り方の検討

居住地校と採択教科書が違う場合は、盲学校の担任が教科書を点訳して交流及び共同学習に臨んでいる。居住地校と進度や教材が異なる中で、学力の充実を図るためには、年間指導計画において居住地校交流で行う単元や題材を明確にしておく必要がある。1 単元の中で、盲学校での学習内容、居住地校での学習内容、Web 会議システム等を活用しての学習内容を整理し、計画的に実施できるようにしていきたい。

(2) 近隣校との学校間交流における共同学習の充実

地理的な問題で居住地校交流が難しい状況にある児童に、近隣校との交流及び共同学習で目的を達成できるようにしたい。盲学校から歩いて行き来することができる近隣校で、行事や委員会交流だけでなく、教科・領域や教科・領域を合わせた指導において交流及び共同学習を充実させていくことで、今後の居住地校交流での教科・領域学習等の充実へと発展させたい。中学部においては、近隣校と学部全体とで一斉に教科・領域での交流及び共同学習を実施することで、引率等の問題が解決できると考える。

(3) Web 会議システムの活用

Web 会議システムを単元の中で効果的に活用する方法を検討し、共に学び合う場を広げていきたい。間接的な交流においても、様々な意見を聞き、自己の考えを深められるような授業を展開していきたいと考えている。

委員会や生徒会の活動では、計画や準備の段階から児童生徒が双方向で意見を交換し、主体的に取り組めるようにしていきたい。

また、遠方の居住地校交流でもWeb会議システムを活用し、担任が引率できないときにも支援や評価ができるようにしていきたい。